



# CHALLENGER

## [ 挑戦者たち ] ⑩



yabu nishikigoi

### 養父の錦鯉

町の西脇には田山川の清流を引き込んだ疎水、そして、家々には鯉を育てる池が隣接する。江戸時代から続く鯉の里・養父市。錦鯉に魅せられた男がここにいます。

#### 錦鯉に魅せられた男

寝ても覚めても、錦鯉のことばかり考えている男がいた。錦鯉の話を一旦始めると、1時間は止まらない。

宮本芳男、養父市の特産である錦鯉の発展に尽力したひとりである。錦鯉の流通が確立され始めた40年前から、錦鯉の品種改良や育成に力を注いできた。まさに錦鯉とともに泳ぎ続けた半生。

彼が鯉と出会うたのは、幼少期にさかのぼる。鯉の生産が盛んだった養父市場で稚魚をもらって帰ったとき、父親が畑を半分つづぶして池を作ってくれたことが始まりだった。

ある文献をひも解くと、230年も生きた長寿の鯉がいるという。そこから、その神秘的な世界にとりつ

かれていった。

錦鯉は日本で創られた唯一の観賞魚で、「国魚」ともいわれている。自然界に生きる真鯉の中から、突然変異で生まれたわずかな色彩を見いだしてかけ合わせ、改良に改良を重ねて、あの鮮やかな美しい姿が創り出される。

同じ親で交配させたとしても、同じ稚魚は生まれない。様々な環境、タイミングが影響し、優秀な品種は何十万匹に1匹であるか否か。錦鯉の品種改良は、根気とあくなき執念を必要とする作業が続く。

「唯一無二の錦の柄を造り出す喜び」。自然のものが相手だけに、計算通りにいかないことは日常茶飯事。宮本はそのものづくりの原点ともいえる面白さに魅せられていった。



朝来市の新名所

新しい和田山・竹田家具です。遊びにいらして下さいませ。

旧店舗より  
約1.3km

和田山・竹田家具 ホームページアドレス <http://kinokagu.com/>  
〒669-5261 兵庫県朝来市和田山町枚田756 TEL 079-872-3456



「鯉の溝飼い」の様子。養父市養父市場のコミュニティセンター前では自由に観賞できる。



養父市養父市場の円山川の清流を引き込んだ水路

「同じやるなら、誰も創ったことのない鯉を開発した。」

どの品種にも属さない、通称変わり鯉、変わりもの」と呼ばれる錦鯉の品種改良が始まった。

## 溝飼いの歴史

養父と鯉の歴史は古く、江戸時代の文献にもその記述がある。出石藩主や豊岡藩主が錦鯉を賛美し持ち帰った記録や、京都の絵師が鯉を描くためにわざわざ養父市場を訪れたとも。

養鯉技術が定着していったところへ昭和12年頃、新潟県から錦鯉が入って本格的に改良、増殖がはかられるようになった。

町内の道の両脇には、円山川の清流を引き込んだ疎水がある。各家々はそれに隣接した池を持ち、鯉を育ててきた。

「溝飼い」と呼ばれるこの光景は、もちろん今も息づいている。円山川の中流にあり、豊富な水量と程よい酸素・養分を含んだ水質が、良質の養父の鯉を育ててきたのだ。

さらに、養蚕の盛んな地域だったことも好条件のひとつだった。蚕のさなぎが鯉の餌として最適だったからである。

こうして、養父はいつしか「鯉の里」

と呼ばれるようになった。先人たちから受け継がれてきた、まちの特産。宮本は、その歴史に新たなページを付け加えようと躍起になっていた。くしくも、養蚕の伝統が錦鯉の品種改良に役立つとは、この時の宮本には知る由もなかった。

## 緑鯉への挑戦

「緑色の鯉を創る」それは常識はずれの発想だった。

元々、観賞用の錦鯉の歴史は、食用から発生した突然変異に類する赤鯉、黄鯉を珍しいと大切に飼ったことから始まったもの。自然界に生きる鯉に、緑の色彩を持ったものは存在しなかった。それだけに宮本の心は燃えていた。

錦鯉の品種改良はいかに優秀な親鯉を創るかに尽きる。欲しい色彩を高い確率で生み出す親鯉を創らなければ、商売として成り立たないからだ。

親鯉を創る作業はまず、欲しい色彩を出しそうな親鯉を交配し、ふ化した稚魚を水を張った田んぼに放して、秋まで3度の選別を行う。

そうして、選り抜かれた子鯉の色の出具合や体型などをみて、親鯉が優秀であるかを判断していくのだ。

この作業を最低3世代に渡って

# 不動産物件豊富なライフフィット!

アパート・マンション・貸家・土地・中古住宅・店舗の売買など、なんでもライフフィットへ! お気軽にご相談ください。

### 本店

豊岡市幸町4番4号 AM9:00 ~  
土・日曜日も営業しています!  
TEL.0796-24-2011  
FAX.0796-24-2077

### 豊岡駅前店

豊岡市大手町1番27号 AM9:00 ~  
土・日曜日も営業しています!  
TEL.0796-26-6565  
FAX.0796-26-6566

ご希望の物件情報を検索できます。 大好評! 情報誌ライフフィットタイムズ 無料進呈中!!



### 株式会社 ライフィット

(社)兵庫県宅地建物取引業協会 宅地建物取引業者免許  
兵庫県知事(3)第650061号  
ホームページ <http://www.lifit.jp>  
E-mailアドレス [info@lifit.jp](mailto:info@lifit.jp)



り返す。単純に3年は月日を要する地道な仕事だ。

稚魚が全滅すれば、また一からやり直さなければならず、また1年、また1年と時間は過ぎていく。

公的な研究所ならば補助も期待できるが、なにせ民間の企業。実験の数や設備にも制約がつきまとう。

時代は高度成長期。幸いにも錦鯉は豊かさの象徴として高値で取り引きされていたため、高値で売れば改良費へ、また売れば改良費へと注ぎ込むことができた。

それでも、緑鯉の誕生への道りは依然険しいまま。試行錯誤をくり返す毎日が続いた。

### そして名鯉は生まれた

「養蚕の経験を生かせないか」  
 宮本は養父の錦鯉が盛んになるきっかけを作った「養蚕」の技術を「養鯉」にも活用できるのではないかと考えていた。

少年時代、彼の家でも蚕が飼われ、養蚕の手伝いをしていた。今でも鮮明に残る記憶。

赤い糸をつくるため、5歳目の蚕の腹の部分にある気孔に赤い色素を塗っていたことを思い出していた。毎日塗り続けると、蚕は赤い糸をはいた。「これだ」と声をあげた。

黄鯉に藍色の色素を混ぜたイサを与え、宮本。次の日も、また次の日もこれしかないと思いついて与え続けた。そうした連続投与の甲斐あって、遂に緑鯉を創り出すことに成功する。それはものづくりの精神を見せつけた瞬間でもあった。

その後、宮本はますます錦鯉の品種改良にのめり込んでいく。「黒ダイヤ」「からす」「九紋竜」「黄三色」などの変わり鯉を数多く開発。

特に現在全国に普及している黒の混じった「黒ダイヤ」系の品種は、宮本が開発した名鯉である。意地と執念が生んだ「芸術作品」といっても過言ではない。

### 美しさの影

錦鯉の品種改良に携わって、約40年。それは挑戦し続けた毎日だった。6年前には、従来の錦鯉に加え、新品種の「ひれ長鯉」を誕生させた。それは、近親交配を行う錦鯉の弱点である「生命力の弱さ」を克服した鯉である。

「強さ」と「美しさ」を両方兼ね備えた錦鯉を創ることは、養鯉に関わるものにとって、誰もか思う目標。「ひれ長鯉」は、錦鯉と「ユーギギラ」に生息するひれ長鯉の原種を交配させてできたものである。

## ニュースタイル! ブルーリッジウェディング

ブルーリッジウェディングは提案のスタイルを一新し、ホテル施設料・料理や衣装・美容などをアイテムごとにツールアルバムでラインアップ。ブライダルのあらゆる情報をご提案いたします。

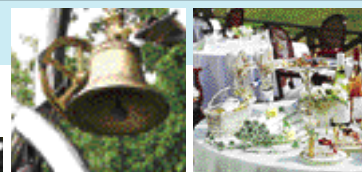
### ミニブライダルフェア

June 2005  
 6月12日(日) 11:00 - 16:00  
 会場コーディネート展示  
 チャペル模擬挙式  
 婚礼料理試食会(要予約)  
 ウェディングドレス試着&撮影会

7月31日(日)  
 ミニブライダルフェア  
 8月28日(日)  
 スペシャルブライダルフェア

GRAND CHAPEL  
 JURARE

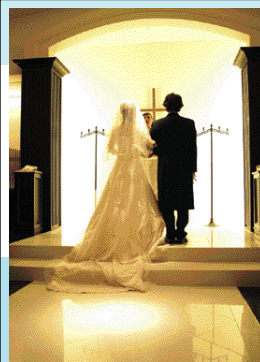
感動を呼ぶ  
 クラシカルテイストのチャペル。

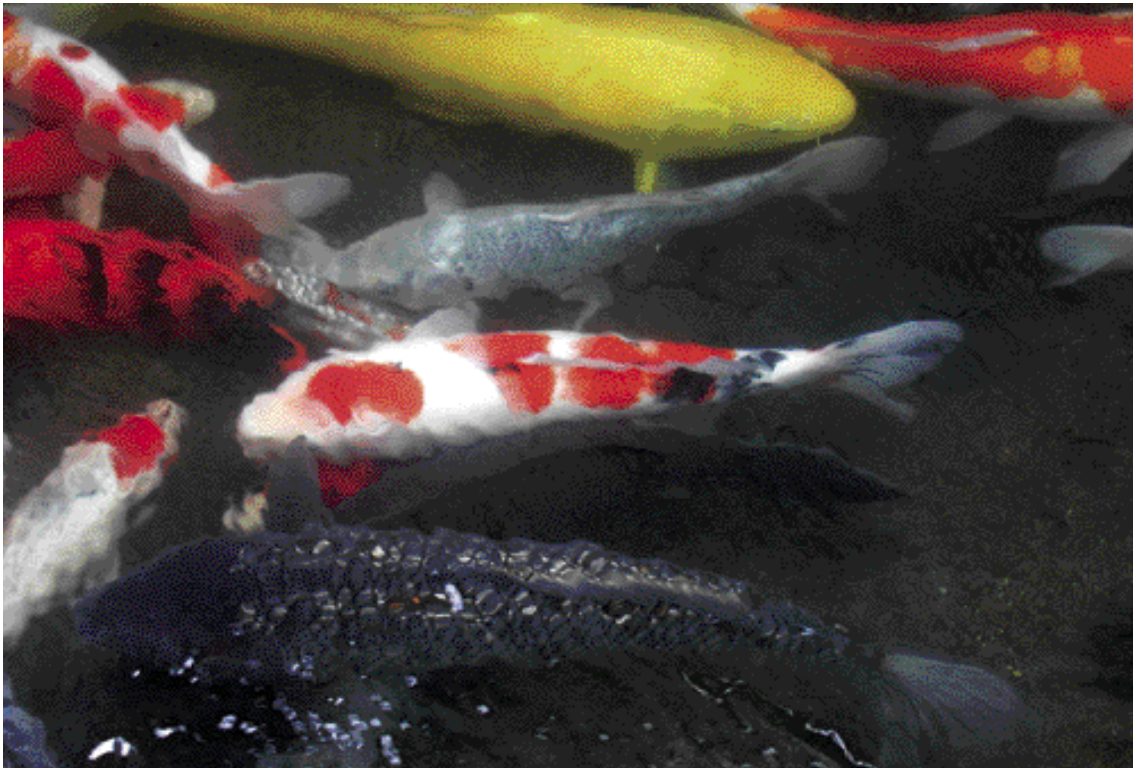


オリックスグループ  
 ブルーリッジホテル

神鍋高原

〒669-5372 兵庫県豊岡市日高町栗栖野55  
 婚礼受付 Tel.(0796)45-1400  
<http://www.orix.co.jp/blridge/>





錦鯉の魅力はなんといってもその美しい錦の柄。この柄を創り出すには想像を絶する時間を要する。

生まれた鯉の稚魚は田んぼで養育される。



田んぼの耕土に含まれる養分が強い鯉を創る



強い生命力を持つ新品種「ひれ長鯉」の雄姿

異種間交配のため、錦鯉に比べて生命力があり、病気にかなりにくい性質を持ち、なおかつ寒さにも強い。「誰でも手軽に飼える錦鯉創りしたい」。鯉の体型を実現するのに10年、錦鯉の模様を有したものを出現させるのにさらに10年かかった。

「邪道だ」と敬遠する愛好家もある。確かに純粋な錦鯉ではない。しかしそれは、宮本の集大成、永年の品種改良の末にやっと辿り着いた「究極の錦鯉」であることに疑いの余地はない。

また、今年も稚魚を田んぼに放す時期がやってきた。「一番難しいのは温度管理。変温動物の鯉は水温の変化に気を使う。最近には特に天候の読めない年が多いので、本当に苦労する」。あとを継いで

いる息子さんがそう教えてくれた。最近では技術の進歩により、田んぼに稚魚を放さず、「コンクリートの池で大きく成長させる業者も増えてきたという。外敵もあらず、手間のかけられない「コンクリートの池なら、稚魚を死なせるリスクが少ない」。

それでも昔ながらの養鯉をしているのは、「より自然に近い状態で飼ってこそ、強い鯉が創れるのだ」という父親から受け継いだ確かな経験があるから。

今日も養父の池には、赤・黄・黒といった色とりどりの模様をつけた錦鯉が優雅に泳いでいる。

しかしながら、その美しさの影に、壮絶な品種改良の努力があったことを知る人は少ない。

協力：養父錦鯉研究所

**あなたの  
毎日の暮らしを応援します**

**但馬信用金庫**

本店 / 豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200 <http://www.tanshin.co.jp/>